

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 64
平成 22 年

案内 平成 22 年度関西大会

発行 日本庭園学会 (会長 藤井英二郎)
〒 150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1
(有) 造園会館気付
TEL(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>



平成22年度 関西大会 スケジュール

平成 22 年 11 月 27 日 (土)

【見学会】

- 12:45 見学会 受付開始
- 13:00 見学会 開始
- 13:15 旧揚屋の庭 (角屋)
- 15:30 京町家の庭 (長江家住宅)
- 16:30 見学会 終了
- 17:30 懇 親 会

平成 22 年 11 月 28 日 (日)

【公開シンポジウム】

- 9:00 受付開始
- 9:30 開会・シンポジウム 開始
- 12:00 シンポジウム 終了
- (12:00-13:30 昼食) (12:00-13:00 理事会)

【研究発表会】

- 13:30 研究発表会 開始
- 16:45 研究発表会 終了
- 16:50 総括・閉会

■会 費 (見学会移動代を含む) 会員：1,000 円・非会員：2,000 円 (28 日だけの参加者は半額) 学生：500 円

■参加申込 京都造形芸術大学日本庭園研究センター内 日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342

E-mail:mukq95755@hera.eonet.ne.jp (関西支部 担当：今江秀史 宛)

■定 員 40 名 (先着順) ■締め切り 平成 22 年 11 月 25 日 (木) ■資料代 1,500 円



■京都市職員会館かもがわ 案内

住所：京都市中京区土手町夷川上ル末丸町 284

連絡先：075-256-1307

0120-82-5252

- ・京阪電車を利用
神宮丸太町駅下車 徒歩 5 分
- ・京都市営地下鉄を利用
京都市役所前駅下車 徒歩 10 分
- ・京都市バスを利用
京都駅方面から 205/17 系統にて河原町丸太町駅下車 徒歩 5 分
北大路方面から 京都市役所前下車 徒歩 8 分
- ・タクシーを利用
「河原町通竹屋町を東に入って突き当たり」と言って下さい。

1日目 現地見学会・懇親会 「旧揚屋と京町家の庭」

集 合：JR 山陰線 丹波口駅北口集合
(京都駅より亀岡駅方面に2駅目)

受 付：12:45～13:00

開 始：13:00 終了予定：16:30

13:00 旧花街・島原を散策

13:15 旧揚屋の庭(角屋) 見学
(タクシーに分乗して移動)

15:30 京町家の庭(長江家)

16:30 終了 ※現地解散

17:30～ 懇親会

懇親会場：がんど寿司三条本店

住 所：京都市中京区三条通河原町東入ル中島町 101

電話番号：075-255-1128

懇親会費：4,000 円程度

※懇親会参加希望者は、参加申込に懇親会参加希望とご記入下さい。

2日目 公開シンポジウム 「考庭学の可能性」

考庭学とは、場の系譜の検証を目的とする着想を得て問もない研究方法である。平成19年から平成21年にかけて、関西支部の関西研究会において研究会とシンポジウムが4回実施されてきた。今回のシンポジウムは、その集大成といえる。庭を研究対象としているという点では、従前、庭園学で行われてきた探求とほぼ同調しているが、従来の主たる研究対象である「庭園」もしくは「造り庭」を、意図的に「庭」の探求に位置づけ直すことを意図している。

最初に基調講演として、考庭学の着想を得ることになった契機の一つである「三ツ塚I遺跡」の発掘調査成果を若狭徹氏に御講演頂く。次に今江秀史氏から考庭学の概要が紹介され、町田香氏からは考庭学の実践的研究が提示される。以上の話題提供を受けて、従来の研究手法からの指摘、考庭学を想定した新しい手法の提案など、活発な議論が期待される。

会 場：京都市職員会館かものがわ

受 付：9:00～9:30

開 始：9:30～12:00

9:30 開会の挨拶

9:35 公開シンポジウムの主旨説明

9:45 基調講演

「古墳時代首長居館の空間構成と機能-祭儀の舞台と庭(仮題)」

若狭徹(高崎市教育委員会)

10:30 「考庭学の射程-場の系譜を検証検証する」

今江秀史(京都市文化財保護課)

11:00 「文化財庭園の考庭学的解釈-名勝滴翠園を題材に(仮題)」

町田香(国際日本文化研究センター)

11:30 ディスカッション

座長：仲隆裕(京都造形芸術大学)



三ツ塚I遺跡『古墳時代の地域社会復原』より転用

2日目 研究発表会 発表要旨

(13:30-13:30)

1. 平安時代初期の庭園文化—嵯峨天皇を中心として—
廣安春華 (京都造形芸術大学大学院)

平安時代初期の庭園が造営された目的、その構成・意匠については先行研究も乏しく、不明な点が多い。本研究では、嵯峨天皇の造営した庭園に着目し、その造営意図、利用内容を史料及び漢詩文学を手掛かりとして検討・考察する。また、嵯峨源氏源融の作庭の分析を通して、初期の庭園が寝殿造庭園へと展開する背景について考察する。特に嵯峨天皇の「行幸」、そして自然や庭園を眼前に「漢詩」を詠むという2つの相補的な行為に、どのような政治的・文化的・思想的意図があったのかを考察し、初期の文化の中での庭園の役割を推察する。

(14:00-14:30)

2. 特別名勝一乗谷朝倉氏庭園 (朝倉館跡庭園) の修理経過報告 2

藤田若菜 (福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

昨年度より、福井市主体の庭園整備事業が始められている。当資料館は発掘調査等の面で事業に関わっているため、前回の関西大会では、昨年度の修理工事設計のための事前発掘調査について報告した。今回は、その後の施工に伴う立会調査を含め、昨年度の調査結果を総括する。また、今年度の事業経過についても一部報告する。

(14:30-15:00)

3. 西翁院淀看席における藤村庸軒の茶風と思想—庸軒の漢詩の考察から—

丸岡喜一 (丸岡樹仙堂・金沢美術工芸大学)

江戸時代初期の大茶人・藤村庸軒は、晩年に京都黒谷の西翁院に隠居し、ここでの茶による接客を目的として茶席「紫雲庵」(淀看席)を建て、同時にここで風雅の日々を送った。本研究では、漢詩人でもある庸軒の多くの遺作の漢詩文の中から、この淀看席に関係する漢詩十四首(この他に、関連する山崎闇斎の漢詩と石川丈山の漢詩各一首もとあげた)を選抜し、それらの詩境を考察・分析することによって、具体的な茶室や庭の形に繋がる彼のここでの風雅の世界の内容、及びその背景となる茶風や思想について明らかにしたい。

(15:15-15:45)

4. 武庫離宮の庭苑遺構についての考察—『庭苑修造工事録』を中心に—

西 桂

武庫離宮は、天皇家の離宮として、風光明媚で水源に恵まれた神戸市須磨の地が選ばれた。明治44年に着工、大正3年に竣工した。そのうち庭苑工事は、大正2年1月に着工、同3年12月15日に完成する。その詳細な庭苑工事に関する記録が残されている。現在、御殿(御座所)など当時の姿を残す和風木造建築群は皆無であるが、庭苑および造園施設の多くが残り、往時の姿を今に伝える。その武庫離宮の庭苑遺構を、庭苑工事録とともに考察する。

(15:45-16:15)

5. 中国庭園における怪石観について

河原武敏

中国庭園には日本人にとって奇怪な形態の庭石が各地に数多く見受けられる。太湖石などの峰石と石假山がそれである。しかしながらこれらに関する研究は少なく、唐代に出現したことは知られているが、それを遡る怪石の背景については詳らかでない。本文はその起源が古来より伝承された山岳観にあり、それが怪石として庭園に採り入れられたものと考察し、瑞雲で象徴される道教や盆石に関係することを明らかにした。

(16:15-16:45)

6. 古代東アジア庭園文化—韓国の三国時代を中心として—

金美琳 (京都造形芸術大学大学院)

およそ5Cから10Cにかけて、東アジア諸国では都城の発達とともに庭園文化も興隆した。これら庭園文化は相互に影響を与えあっていたものと考えられる。しかしながらその実態については不明点が多く先行研究も乏しい。よって本研究は都城史研究の成果等も踏まえつつ古代東アジアにおける庭園文化に交流について検討・考察することを目的とする。特に古代朝鮮半島の三国時代のうち高句麗の庭園文化を中心に調査・その成果を考察する。

第3回見学会 旧大乘院庭園

日時：平成22年12月4日（土）午後1時より

場所：旧大乘院庭園

奈良市御所馬場町（奈良ホテル南隣り）

講師：小野健吉（奈良文化財研究所・日本庭園学会理事）

平安時代の後期創建の歴史を有する旧大乘院は代々攝関家の者が入寺する名門寺院であり庭園も創建当初よりあったと思われるものの、室町中期に焼失し、その後再興され、その後足利義政の同朋衆で、天下第一の作庭者であった善阿弥によって庭園は大改造された。

江戸時代初期には金森宗和が茶亭を作り幕末まで興福寺別当職の住坊として高い格式を誇っていたが、明治時代に入り、神仏分離や排仏希釈によって建物が取り払われ庭園も池の形を残すのみとなった。中世庭園を知る上で欠くことのできない当庭園は、戦前戦後に渡る調査と整備が行われ、近年一旦これを終えた。改めて調査の結果と現状について、これに携わった1人である小野健吉理事自らの講義と案内による見学会を開催します。

当初10月に開催を予定しておりました見学会は事情より関西大会（11/27,28）の1週間後の12月4日の開催となります。間の悪さには恐縮する以外ありませんが、

庭園学会の活動を一般の人々にも知って頂く為の見学会でもあり一般参加も大歓迎です。周辺は近年観光客にも親しまれるようになった「ならまち」です。建都1300年のイベントを終え、落ち着きを取り戻した、古都奈良の師走の街の散策も一興かと思えます。お誘い合わせ、若しくは御紹介等による多数の皆様の参加をお待ち申し上げます。

■申し込み／受付（締切り11月29日）

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都芸術大学 日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局

FAX (075) 791-9342

■問い合わせ先

野村勘治

〒461-0014 名古屋市北区榑木町2-9

(有)野村庭園研究所

TEL (052) 931-8931

(090) 8959-0562 (野村)

FAX (052) 938-6541

E-mail: nomurateien@forest.ocn.ne.jp

澤田天瑞遺構保存会による見学会

開催のお知らせ

日本庭園学会副会長・中部庭園同好会会長の澤田天瑞先生が亡くなられて2年、その業績と足跡である研究論文・調査研究資料が遺稿集として出版されることになった。この度、遺稿集を編集された澤田天瑞遺構保存会が出版を記念し、庭園見学会と懇親会を開催されることになった。

日時：平成22年12月11日（土）PM12:40～16:30

集合場所：覚天山 日泰寺（名古屋市千種区法王町1-1）

見学先：覚天山 日泰寺

揚輝荘庭園（名古屋市千種区法王町2-5）

懇親会場：ルブラ天山（名古屋市千種区覚天山通8-18）

見学会参加費用：500円 遺稿集：1,500円

懇親会：6,000円

参加申込方法・期限：平成22年12月1日までにFAXで申し込んで下さい。

連絡先：澤田天瑞遺構保存会 会員 山高佳雄

〒492-8216 稲沢市大塚町善世3394-23

TEL/FAX:0587-32-3915

報告 関西研究会 文化財庭園部会

研究会 平成 22 年 9 月 25 日



平成 22 年 9 月 25 日、第 4 回文化財庭園部会が開催され、「版築による築山修理技法」というテーマのもと、研究会が行われた。

事例報告ではまず、環境デザインスタジオ セブンプラスフォーの武廣氏による、京都市指定名勝 光雲寺庭園の築山修理についての報告が行われた。光雲寺庭園では苔の生育不良・表土の流出・排水不良・護岸と関係する箇所が優先的に修理され、破損の状況から階段状に版築層を積み上げる工法が採用された。聚楽土および聚楽土の成分分析結果に基づき作成した土を材料に、高さ 5cm 幅 5cm を基準とした版築層が積層され、庭園内に池・流れがある事から、園路と同時に護岸との関係も考慮した築山のラインを慎重に設定することや、作庭当初の面影が残る部分については痕跡と痕跡を基準にしながらパッチワーク状に部分修理をすることの重要性が報告された。

続いて花豊造園株式会社の長谷川氏より、京都市指定名勝 西翁院庭園の築山修理の報告が行われた。庭園内部の高低差約 2 m の法面部分にて、版築工法による土留部分の整備および植栽の復旧が実施され、下段高さ 3 cm を基準に法面の勾配を考慮しながら、最上段は 9 cm の高さの版築層を 30 段築き上げた事が報告された。法面の複雑な形状に対応するため、フレキシブルな板を金属製のペグで固定し土を留める方法や、一定勾配にする

のではなく、植栽部分はなだらかな斜面になるよう等高形状と起伏を考慮した工夫等が発表された。

最後の株式会社環境事業計画所の北川氏による、特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園の築山修理についての報告では、表土の流出と土砂の堆積および景観的に優先する部分を、階段状の版築層を積み重ねる工法によって修理した事についての説明が行われた。材料には日蓮宗本山立本寺境内での発生土を使用し、版築層は高さ 5 cm 幅 5 cm を基準とし、傾斜の緩やかな部分は幅を広めに確保した層を積み上げる施工が行われ、段と段の入り隅に少量の土を加え突き固め、段の角を潰すといった方法を行った事等が発表された。

質疑応答では、階段状に版築層を積み上げる工法について、植栽への影響や透水性、実際の施工への質問や意見が交換され、その他、修復工事では過去の工事の記録が希少な事から、現在行っている修理の記録の重要性や、中部地方での修復の現状についての意見も等も挙げられた。

さらに現地見学会において京都市指定名勝 西翁院庭園を見学させて頂き、修理後の築山を前に細かな施工方法の説明や質問が交わされ、実際に目にする事によって参考となる修理に関する工夫等を体現できた。

以上の築山修理技法の事例報告を通して、階段状の版築層の積み上げ工法についての発表に対しては、考案からまだ日が浅いということに加え、庭園修復では植栽等の自然物が扱われる事にも考慮し、工法の多様化や施工速度の改良、材料についての研究の他にも、経年変化や工事の経過事例を今後も真摯に見守り、向き合っていく必要があると感じた。

最後に、様々な現場や立場で専門的に活動されている方々と共にこのような報告や意見を交換できる貴重な場に参加させて頂き、大変感謝の気持ちを抱いた。この機会をきっかけに、今後もより一層の研究心を持って仕事に励んでいきたい。

松宮 未来子

(環境デザインスタジオ セブンプラスフォー)

報告 関西研究会 文化財庭園部会

見学会 平成 22 年 9 月 25 日

版築を用いた築山修理技法の修理事例として今回、見学させていただいたのは金戒光明寺塔頭、西翁院。高台に位置し、本堂北西に茶室、そこへ至る露地庭がある。遠くに見える西の山々を借景として、『都林泉名勝図会』にも当時の様子が描かれ、淀、山崎方面を望めるほどの景勝地であった。

中門をくぐり、石段を下りていく。石積、緑地法面を東側に露地を行くと待合に行きつき、そこからまた北に向かって少し進めば、再び石段が現れる。そこを上ると「澗看席（よどみのせき）」ともいわれる茶室に至る構成になっている。

傾斜地の高低差を利用した露地の作り方が特長的であり、下っていく露地は生垣に囲まれた中を進み、茶室へ上っていく。その道りはまさに自分が山の中にいるように感じた。茶室に入らせていただき、下地窓から淀があるほうを眺めてみたが、現在は外側の民家との遮蔽を目的として庭西側の生垣を高くしているためにかつてのような眺めとは変わっているのだろうと思った。また街の様子も大きく変化してしまっていることもある。しかし庭の様子も『都林泉名勝図会』当時とはまた違うが、最後に西向きに大きく開けた眺望へ辿りつく、この庭園がつくり出している様に感嘆した。

版築による築山修理技法の研究會に参加し、普段何気なく眺めていた庭園の構成要素である築山がどのような維持管理、修理がなされているのかを今回初めて学んだ。西翁院露地においては待合の東側法面部分に版築工法が施されている。工事は強固な斜面を維持するとともに、その部分で木々を植え、ちゃんと育つように様々な工夫が重ねられていた。実際に訪れたことで図面だけでは掴みきれなかったスケールや全体の流れを感じ、その中でそこかしこに細かな心配りをみることができた。そしてまた改めて庭園を様々な自然条件の中で作りあげ、よい状態を保っていくことがいかに大変なことであるかを学んだ研究會だった。

今村友紀（京都造形芸術大学）



期間限定一般公開のお知らせ

光雲寺庭園（京都市左京区）

光雲寺は南禅寺の境外塔頭であり、哲学の道にも近く、紅葉の名所永観堂のすぐ北側に位置する。仏殿には本尊の釈迦如来像のほかに、東福門院像や念持仏の聖観音像も祀られており、今回は、東福門院ゆかりの寺宝のほか、このたび修理が完成した7代目小川治兵衛作庭の庭が特別公開される。

■期間：平成22年11月20日（土）～12月5日（日）

※都合により拝観ができない場合がある。

■時間：10：00～16：00（受付終了）

※日によってはすべての公開部分をご覧いただけない時間帯がある。（拝観は可）

■拝観料：大人600円 小学生300円 / お抹茶席 一服500円

■交通

（JR/近鉄）京都駅より市バス5・100「東天王町」下車、徒歩約5分

（市バス）京都駅より地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車後、市バス93・204「東天王町」下車、徒歩約5分

（市営地下鉄）京都駅より地下鉄東西線（烏丸線烏丸御池駅乗換え）「蹴上」駅下車、徒歩約15分。

※駐車場なし

会費納入のお願い

平成22年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願い申し上げます。また、過年度滞納の方は併せて納入頂きますようお願いいたします。

表紙の写真

【京都市指定名勝 光雲寺庭園】

■編集後記

本年は記録的な猛暑が続きました。ナラ枯れの発生も拡大し、対策に追われる日々でした▼本年度の関西大会は「やはり紅葉のシーズンに開催を」とのご要望によって11月27・28の両日に京都市内で開催いたします。宿泊場所の予約が取りにくく恐縮ですが、多数の後参加をお待ちいたしております▼京都市には数多くのすぐれた町家・民家の庭が残されています。昨年度は角屋の庭が京都市名勝に指定され、また平成22年度からは南禅寺界隈の別荘庭園群ならびに市内全域の町家・民家の庭の現地調査がスタートしています。今回の関西大会では、その角屋の庭と長江家の庭を見学いたします。所有者の方々はじめ、京都市文化財保護課のご協力に御礼申し上げます▼研究発表会には6名の申し込みがありました。日本の各時代の庭園文化のみならず、中国や韓国の古代庭園に関する発表が予定されています▼シンポジウムでは、関西支部が取り組んできた仮称「考庭学」の成果の一部が報告されます。庭園の概念を問い直す意欲的な試みといえましょう▼会員外の参加も歓迎いたしますので、多数の皆さまの参加をお待ちいたしております（T、N）

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送またはFAXにてご連絡頂けますよう、よろしくお願い致します。

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会 広報委員会「学会ニュース」係

FAX(075)791-9342

編集長/仲 隆裕 編集・写真・構成/今江 秀史

協力/松宮未来子・今村友紀

日本庭園学会広報委員会

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342